



# 田中小だより

平成30年度  
10月号

昭島市立田中小学校 〒196-0014 昭島市田中町三丁目4番地1号 電話：042-543-1511 校長 土屋 正登

## 聖人賢人の読書

校長 土屋 正登

「読書」と言えば思い出す言葉があります。「万巻の書を読むにあらざるよりは、いづくんぞ千秋の人たるを得ん」これは、吉田松陰先生の言葉です。この意味は、「多くの本を読み、勉強しなければ、どうして名を残すような立派な人間になることができようか。しっかり勉強しなさい。」ということです。

吉田松陰先生の読書量は、多い年で一年間に500冊以上だったそうです。昔の本は、字が大きかったので、今日の本と比べられません。歴史上に名前が出てくる人物のほとんどが、一生懸命に努力したり工夫したりして読書をしています。例えば、一冊の本を読み終わるまでは、他の本を絶対に読まないとか。聖人賢人の本を一日中正座して読み続けたとか。また、貧しくて本を買えないから本を写す係になって、昼も夜も書庫にこもって読み続けた。また、本を読むにも明かりがなかった。そこで、隣の家には、明かりがあったので、壁に穴をあけて穴から漏れてくる光を頼りに本を読んだ、等々。

中国の政治家の司馬光は、幼い時に暗誦が不得意で、それを大変気にしていました。でも、一緒に勉強していた友達が暗誦を終わって遊んでいる時も、司馬光だけは、一人で本を読んで、とじ糸が切れる程、繰り返し読んで、すらすら暗誦できるまで頑張ったということです。

こんな話もあります。吉田松陰に学んだ天野御民ぎよみんは、「自分は記憶力が弱く今日読んだことも明日には忘れてしまう、どうしたらよいでしょう。」と、吉田松陰先生に尋ねました。すると、先生は、答えて、「それは、非常によいことだ。およそ読書ということは、一度読んで、すぐに覚えよう、通曉(中味を知り抜く)してしまおうと望んではならない。聖人賢人の本を順に、繰り返し読むうちに自然と意味も分かって書かれていることも自ずと暗記してしまうのである。逆に、記憶力だけが強いただけに、記憶力を当てにして復習を怠り、とうとう記憶力の不得意な者になってしまう人すらいる。学問も事業も決して急いではいけないのだ。」と諭したそうです。